

第1回城陽市水道事業及び下水道事業における
包括的民間委託優先交渉事業者選定審査会会議録

日	時	令和6年11月21日（木）	10時00分から 11時20分まで	
場	所	城陽市公営企業庁舎2階 第1会議室		
出	席	者	楠見委員、西崎委員、山野委員、竹内委員	
欠	席	者	－	
議	題	等	【議題】 （1）会長の選出について （2）提案審査の内容と評価の視点について	
審	議	概	要	別添「審議内容」のとおり

審議内容	
《開催結果の概要》 1. 開会 2. 挨拶 竹内上下水道部長 3. 議題 (1) 会長の選出について	
委 員：	会長については、城陽市上下水道事業経営審議会の会長を務められ、委員の中で城陽市の上下水道事業に最も明るいと思われる、楠見委員にお願いしてはと考えるがいかが。
一 同：	異議なし。
委 員：	了承。
(2) 提案審査の内容と評価の視点について 《進行》 ※採点基準の内容に関する質疑回答については、非公開とする。	
事 務 局：	議題(2)について説明
会 長：	質問・意見等問う。
委 員：	別冊3の4ページで、価格提案評価点の算定方法で見積上限額の90%とあるが、見積もり上限額は公表するのか。
事 務 局：	見積上限額は募集要項の11ページで「10年間で税抜42億3,186万円」と示している。これの90%の金額で価格提案と考えている。
委 員：	それを前提とすると、90%を下回って入札する事業者は出てこない。もっと安い金額で申し込まれる事業者がいるかもしれないが、出してしまうと絶対90%を下がることはないが大丈夫か。市議会の質問等で不必要な支出を招いたのではないかと問われるかもしれないが。
事 務 局：	90%という形で設定しているのは、サウンディングの中で、各事業者は価格競争になると、技術力がおろそかになり、ダンピングも想定されるという意見があった。安かろう悪かろうでは困るわけで90%という形で設定した。議会においてもダンピング防止ということは考えていると答えたことはある。ただ最終的に同点になった場合については、価格提案の低い方を選定としているので、必ずしも90%で入れてくるとは限らないと考えている。
委 員：	もっと安くできたのではないかという点についての問いかけに対する、市としての答えを準備しておく必要がある。価格の設定の方法もいろいろあり、城陽市の場合は90%がMAXでそこから全て満点になるので、そういうことを踏まえた質問等があれば、入札終了後に不服申し立てにこられるケースがあるかもしれないので、きちっとそこを整理されたい。サウンディングの動向っていうのは実態としてはあると思うが。

審議内容	
事務局：	内部できちんと見解を整理したい。
委員：	委員名は公表されているのか。
事務局：	非公表という形でさせてもらう。優先交渉事業者が決定してから名前や点数を公表すると考えている。
委員：	了解した。
委員：	複数業者がプレゼンテーションにこられて、点数を付けて、コンテンツに基づいて、まず優先交渉事業者を決定するが、次点の事業者も公表するのか。
事務局：	優先交渉事業者となった事業者については、業者名と点数を公表する。次点以降の事業者については、名前を伏せたうえで公表する予定。次点以降の事業者についても、もし優先交渉事業者との協議が整わない場合については、次点の事業者と交渉する場合があるということは募集要項にも記載している。
委員：	最近入札の不成立というのが出てきているが、どう考えているのか。
事務局：	全く考えられないということはないが、サウンディングや事業者との協議の中で、複数の事業者から応募いただけると考えている。金額が合わないなどあらゆることが想定されるが、基本的には複数社から応募いただけると考えている。
委員：	評価点の出し方は、それぞれが点数を書いて平均を出すのか、それとも全員が集まって、この項目については何点にしましょうとか合意に達して、一つの点数が決まるのか、決め方を教えていただきたい。
事務局：	それぞれで点数を出してもらい、最終的に平均を取るか、足し上げていくのか、方法は二つあるが、基本的にはそれぞれ出していただいてという形で考えている。
委員：	それぞれがプレゼンテーションを聞いて、自分で点を決めていくという形で了承した。
委員：	平均を取るのか、合計するのか、今決めておいた方がよい。
事務局：	平均で決定したい。
委員：	評価表については、1社のプレゼンテーション後にすぐに回収されるのか、他社のプレゼンテーション後に修正も可能として、最後にまとめて回収されるのかどちらか。委員の4人は同じ机上で決めたい。
事務局：	採点基準としては1社を見ただけで採点ができる基準を目指して作ったが、次の事業者を見ていく中で、前の数字を修正することもあるかと思うので、全ての業者を見終わった段階で点数を回収したいと考えている。
委員：	まとめるとそれぞれ事業者がプレゼンをしてすぐに点数をつけて、もう一度見直しの時間もあって、それぞれの委員が最終出した点数を集計して平均化していくという形でよろしいか。

審議内容	
事務局：	そのとおり。
委員：	平均はどこまで出すのか。小数点以下まで算出して比較を行うのか。
事務局：	小数点以下まで比較をしたい。
委員：	プレゼンテーションはここで行うのか。
事務局：	この場所で予定している。
委員：	プレゼン時に応募する社名は隠す形とするのか。
事務局：	提出いただく資料や提案の中で、各事業者の独自の技術的なものを提案される可能性があるので、出しても差し支えないと考えている。
委員：	プレゼンテーションの中身よりも、事業者名に引っ張られて採点しないようにということで、事業者名が出さないところが多いが。
事務局：	出す方向で考えているが、審査会の中で公表しない方がよいということであれば、全ての資料をマスキングしたり、プレゼンテーションのときに、事業者名は名乗らないように事前に伝える必要があるので、決めていただけたらと思う。
委員：	出すか出さないか、どうするのか。
委員：	採点する方からすれば出されてない方が点数を入れやすいが、どうか。
事務局：	その点について、内部でも議論をし、今回は複数の業務を包括的に委託する中で、JVなどの連携や、窓口業務や応援業務などを複数受託してもらう中で、事業の連携などについても提案をいただく内容となっている。その中で各構成企業が伏字やそれを語ることができない状態での提案は、提案内容が不明瞭化するという点もある。資料の中で、保有している人材や設備が提案の中に盛り込まれる中で、事業者名がほぼ明瞭化されと考えられるので、資料を匿名化してもあまり実効性がないと判断した。
委員：	事業者名が明らかになっていると、採点に影響が出る可能性もあるっていうのはよくわかるが、事務局の方で総合的に考えられたということであれば、オープン形でやってよいのかなと思う。
委員：	事業者がPRして、独自技術を訴えたいと思うのであれば、事業者名を出して、それをクローズで審査するわけなので、特に問題はないのかなと。
委員：	懸念しているのは、竹内委員が入っておられること。外部の委員はどこかに肩入れもないので影響はないが、竹内委員は直接事業者と協議されて、中身を知った上で採点されるので、そこが引っかかるが、基本的にはお任せする。
委員：	事務局の案どおりで問題ないか。
委員：	問題ない。
委員：	実際のプレゼンテーションはいつ頃になるのか。
事務局：	資料2の募集要項の8ページにスケジュールを示しており、提案審査書類

審議内容	
	の受付は4月11日から4月18日に提案審査書類を受付け、実際のプレゼンテーション及びヒアリング審査については4月の後半から5月頃を予定している。
委 員：	具体的には、業者のプレゼンテーションの後で質疑応答の時間を設けられて、我々と質疑応答をしていくという形でよいか。
事務局：	提案資料については事前に配布する。当日はプレゼンテーションをしていただいて、ご質問いただくという形になる。だいたい1事業者1時間くらいを予定しており、半分がプレゼンテーションで、半分が質疑応答という形で考えている。ただ時間については応募者数に応じて臨機応変に対応したい。
委 員：	優先交渉の次点事業者についても、点数で次点1、次点2とか決めるのか。
事務局：	募集要項には次点者とだけ書いてあるので、第2位までと考えている。
会 長：	他に意見等もないため、これで終了する。
事務局：	提案いただいた2段階評価の再分配については、再度検討して改めて示したいと思う。
委 員：	次集まるのはプレゼンテーションの時か。
事務局：	次回の会議については、令和7年4月以降の提案書に係るプレゼンテーションのヒアリングということになるので、よろしくお願いいたします。
4. その他 なし	
5. 閉会	